



毎月スタッフへ送る 所長メッセージ

ゆうずうむげ 「融通無碍」のすすめ

融通無碍とは、1つの見方、考え方にとらわれることなく、自由自在にものを見、考え方を換え、よりよく対処していくこと

僕は結構、融通無碍な生き方をしてきたつもりです。

生い立ちは貧しかったけれども、それに負けたくなかった。いつも「どうしたら自分のやりたいようにできるか」を考えていました。中学校時代、僕は剣道をやっていましたが、特別の形を持たず、相手に柔軟に合わせていくスタイル。形にはまらない、いわば「無手勝流」でそれなりに強かったのです。

30代で、諏訪中央病院の院長を任せられ、病院の今後を考えたときに「融通無碍な病院のあり方」を考えました。医療には「EBM」(エビデンス・バイスト・メディスン)という言葉があります。「科学的根拠に基づいた医療」と言う大原則です。ですが、僕はそれを基本にしながらも、病院を融通無碍に運営していくことが大切だと考えました。

言い換えれば「融通が利く病院」、それが「NBM」(ナラティブ・バイスト・メディスン)「患者さん自身の物語と対話する医療」です。患者さんの命を救うための医療体制を充実させるのは、当然で、一方で患者さんを全人的に支えるために、患者さんの心や魂のあり方を大切にしようという精神に基づきます。

僕は、病院でコンサートを開いたり患者さんと家族とが一緒に楽しくいられる空間や庭を設けたり、ボランティアや友人との絆を大切にしたり、また、ホスピスでの看取りのあり方の追求などにも力を注いできました。

ただ、自分の方針だけにガチッと固執しないように注意しました。職員の気持ちに耳を傾け、彼らが自然に患者さん目線になるように意識すると、やがてみんなが僕の考え方を理解してくれるようになりました。そして「諏訪中央病院は患者目線の温かい病院だ」と言う声が聞こえてくるようになりました。



鎌田先生のお考えにいつも、感動致します。

私も「ご利用者のこれまで歩んでこられた歴史、物語(ナラティブ)を聞かせていただく、<聞き書き>を取り入れていきたいと思っています。具体的なやり方を示していくつもりです。

そして、スタッフ一人ひとりの物語も大切に関わらせていただきたいと思います。何でも話せる温かいてのひら訪問看護リハビリステーション、融通がきくステーションを目指して、みんなと協力しあいながらやっていきたい気持ちでいっぱいです。今月も寒い中、お疲れ様でした。

2023年3月10日

呉静恵



【勉強会】ACP・看取り支援



窪内NSに「在宅におけるACPと看取り支援 エンゼルケア」と題して勉強会をしてもらいました。窪内NSご本人の物語も含めてお話していただき、スタッフ全員が死について考える機会となりました。



過去のスタッフブログやてのひら通信も
気軽にみにきてくださいね♪

てのひら訪問看護リハビリステーション HP



【発行元】てのひら訪問看護リハビリステーション
【事業所番号】3960190472
【住所】〒780-8081 高知県高知市若草町16番5号A棟
【TEL】088-821-9668 【FAX】088-821-9667